

2014年4月28日 全3頁

# 戦争か平和か

## 勝者なきウクライナ問題

ユーロウェイブ@欧州経済・金融市場 Vol. 22

ロンドンリサーチセンター シニアエコノミスト 菅野泰夫

### [要約]

- 4月26日、G7（主要7カ国）とEU（欧州連合）は、一連のウクライナへの軍事関与に対してロシアへの追加制裁を発動する構えを見せている。前回発動されたプーチン政権側近への資産凍結等の制裁に大きな効果がなかったことを受け、制裁対象者の拡大および貿易、金融面等での新たな制裁内容が発表される模様だ。
- 収束が遠のくウクライナ問題であるが、ウクライナ東部地域での全面的な内戦となり、ロシア軍の介入がやむを得ない状態になると、それは東スラブ民族間での戦争を意味することとなる。これはセルビア人、アルバニア人の民族間での争いから起こったコソボ紛争のケースとは大きく異なる。当然ながら、ウクライナおよびロシア両国民の多くを構成する同一民族間での戦争を望む者は誰もいない。
- 西側とロシアとのパワーバランスの行方が、同一民族間での戦いとなることを是が非でも避けたいのは、両国民の共通認識である。戦争か平和か、両国民にとって、望む答えはただ一つしかないといえる。勝者なきウクライナ問題の本当の勝者は、制裁でも軍事関与する者でもなく、先に自制する者であるといえよう。

### 錯綜する報道とロシア側からの軍事圧力

4月26日、G7（主要7カ国）とEU（欧州連合）は、一連のウクライナへの軍事関与に対してロシアへの追加制裁を発動する構えを見せている。前回（3月20日）発動された、プーチン政権側近への資産凍結等の制裁も、ロシア側に大きな影響がなかったことを受け、制裁対象者の拡大、貿易および金融面等での新たな制裁内容が発表される模様だ。

西側がこの追加制裁を発動する背景は、4月17日の4者合意（ロシア、ウクライナ、米国、EU）の履行をロシア側が順守していないと西側が認識したことにある。4者合意では、ウクライナに住むロシア系住民の保護をロシア側に約束するかわりに、ロシア軍によるウクライナ東部への侵攻を抑制することや、東部主要都市（ドネツク等）の州庁舎を占拠する親ロシア派勢力

(Pro-Russian) の武装解除や行政施設からの撤退を促すことをロシア側に求めていた。しかし 4 者合意以降も、親ロシア派勢力による州庁舎の占拠は続いており、ウクライナ国境付近でのロシア軍による大規模演習も連続して行われている。州庁舎を占拠している親ロシア派勢力と、ウクライナ軍との小競り合いが生じていることもロシア軍が国境付近から軍事圧力を緩められない要因ともいえるであろう<sup>1</sup>。また親ロシア派勢力が、ロシア軍介入の有無を確認する欧州安保協力機構 (OSCE) の監視団を一部拘束するなど、過激化する勢力の制御はロシア、ウクライナ双方ともに難しくなっている模様だ。ロシア軍からのウクライナ領域への領空侵犯や親ロシア派勢力への武器譲渡などの情報も錯綜しており、現段階で正確な情報を把握することは困難ともいえる。

一方で、ドイツ、フランスから対ロシアビジネスを行う企業・富裕層からは、追加制裁に関しては苛立ちの声が増えつつある。5 月 25 日のウクライナ大統領選投票日の前にロシア側を刺激し、対 EU 諸国への貿易、エネルギーに関連する報復制裁を受けることは避けたいとの声も多い。露ラブロフ外相およびプーチン大統領が、親ロシア派に対する軍事関与を否定している段階で、ロシア側を挑発する不用意な制裁は、軍事的な関与を妨げることにはつながらない。

## 重要なのは同一民族間での戦争を望む者はいないという原点に立ち返る事

収束が遠のくウクライナ問題であるが、ウクライナ東部地域での全面的な内戦となり、ロシア軍の介入がやむを得ない状態になると、それは東スラブ民族間<sup>2</sup>での戦争を意味することとなる。当然ながら、ウクライナおよびロシア両国の多くを構成する同一民族間での戦いを望む者は誰もいない。これはセルビア人、アルバニア人の民族間での争いから起こった Kosovo 紛争のケースとは大きく異なる。過去、ガス料金の未納問題などで小競り合いなどから両国間の関係悪化などの報道も目立つが、かつて旧ソ連の共和国同士であることには変わりはない。今も親族の多くが、両国間にまたがって生活している状態での戦争を望む者は誰もいないということだ。

また今回の親ロシア派勢力による占拠を排除する上で最も危険なのは、ウクライナ軍、親ロシア派勢力に特殊訓練を受けている軍人が少ないこともその一つといえる。3 月 2 日のロシア軍によるクリミア制圧が無血でおこなわれたのも、特殊訓練を受けているロシア軍の存在が大きいといわれていた。ウクライナ軍からの本格的な攻撃により、親ロシア派勢力が一部暴徒化した場合、事態の收拾がつかなくなり、多数の死傷者がでる可能性も高い。そうなると、歴史上かつて経験したことがない東スラブ民族間での紛争になることを認識すべきであろう。ただし不幸中の幸いとして、現時点では、東部へ派兵されたウクライナ兵士の多くは親ロシア派勢力に宥められ、兵器を渡して解散しているケースも多く見受けられるといわれる。東部地域へ派兵されたウクライナ兵士の多くは、現段階でのウクライナ暫定政権の能力を信じてはおらず、親ロシア派勢力との戦闘を避ける傾向にあるといわれている。受動的に動かざるを得ないウクラ

<sup>1</sup> 一部では、親ロシア派勢力からウクライナ軍基地への銃撃等も始まり数名の死者が出ている。

<sup>2</sup> ロシア、ウクライナ、ベラルーシ国民の多くを構成する民族。ポーランド等は西スラブ民族。

イナ暫定政権からの軍事作戦も、同一民族間での戦争を避けるという兵士の意志（本能的な良心の呵責）により、現段階では大きな惨事に至っていない。

戦争か平和か。ウクライナ、ロシア両国民にとって、望む答えはただ一つしかないといえる。西側とロシアとのパワーバランスの行方が、同一民族間での戦いとなることを是が非でも避けたいのは、両国民の共通認識である。仮にロシア軍も巻き込む内戦が勃発し、多くの死傷者が出る惨事となった場合、東スラブ民族は永遠にその悲惨な出来事を記憶から消し去ることはできないであろう。西側の制裁は、経済、金融、貿易と多岐にわたる可能性が高い。今回の問題を煽る形での制裁に関しては自制を求める声が多いと同時に、国境付近に駐留するロシア軍にも冷静な対応を求める声が多いことは言うまでもない。勝者なきウクライナ問題の本当の勝者は、制裁でも軍事関与する者でもなく、先に自制する者であるといえよう。

(了)